

7月24日のウクライナ情報

安齋育郎

① 参政党の赤坂ニュース(及川幸久、2024年7月23日)

<https://www.youtube.com/shorts/N7bWAOao-VU?feature=share>



<https://www.youtube.com/shorts/N7bWAOao-VU>

②ウクライナ外相、23日から訪中へ 中国外相と協議(By ロイター編集、2024年7月23日)



[キーウ／北京 22日 ロイター] - ウクライナ外務省は22日、クレバ外相が中国政府の招待を受けて今週23日―25日に訪中し、中国の王毅外相と二国間関係について協議すると発表した。会談では、ロシアとウクライナの紛争終結方法や、和解に向けて中国が果たし得る役割に焦点が当てられる。

中国側の声明では、クレバ氏の訪問は7月23日―26日とされており、詳細は明らかにされていない。

これまで中国はロシアによるウクライナ侵攻を非難しておらず、ロシアの戦時経済を支援しているが、ウクライナは中国に対する批判には慎重な姿勢を取ってきた。

一方、中国はロシアとの関係は非同盟関係に基づいており、いかなる第三者も標的にしていないと主張している。

先月15日、スイス中部ビュルゲンシュトックで開かれたウクライナの和平案を協議する「平和サミット」には、90カ国以上が参加したが、中国は欠席。ロシアは招待されず、前日に独自の停戦案を発表していた。

<https://jp.reuters.com/world/ukraine/VOEM2U6IDFJ2VB4N3LM5H3ZGIA-2024-07-22/>

③露大統領報道官、ゼレンスキー氏の「ロシアとの対話」発言にコメント(2024年7月22日)

露大統領府のペスコフ報道官は、「ロシアとの対話」の可能性に言及したウクライナのゼレンスキー大統領の発言について、「もちろんこの発言は、ロシアとの接触を排除したり、最後のウクライナ人になるまで戦うといったような声明よりはいいものだ」とコメントした。

一方、ウクライナ側に対話の気があるなら、実際に行動するのを待たなければならないとも指摘した。

ゼレンスキー大統領はこのごろ、英 BBC のインタビューで、「もしロシアが第2回平和サミットの案について話し合う気があれば、我々もロシアの代表者と話す用意がある。それがプーチンであろうと、そうでなくても関係ない」と発言していた。ゼレンスキー大統領は2022年、自身の大統領令によって露現政権との和平交渉を禁じ、対話の道を閉ざしていた。

一方でロシアのプーチン大統領は今年6月、ロシアが新たに編入した地域からのウクライナ軍の完全撤退と、NATO加盟計画の中止を決定すれば紛争は直ちに停止されると発言していた。



<https://sputniknews.jp/20240722/18856585.html>

④U、ハンガリーで外相会合開催せず オルバン氏の訪口に反発(By ロイター編集、2024年7月23日)

【ブリュッセル／パリ 22日 ロイター】 - 欧州連合(EU)の外相に当たるボレル外交安全保障上級代表は22日、ハンガリーが8月末に主催する予定だったEU外相会合の開催場所をブリュッセルに変更すると発表した。ハンガリーのオルバン首相のロシア接近への反感がEU内で広がっていることへの対応とした。

ハンガリーは現在EU議長国を務めており、8月28-29日にブダペストで外相会合、その後に国防相会合を開く予定だった。ボレル氏は、これらの会合に出席するか加盟国から合意が得られていなかったとし、多くの国がハンガリーにメッセージを送る必要があると考えていたため、開催地をブリュッセルに変更したと説明。「象徴的なメッセージであっても、メッセージは送らなければならない」と述べた。

オルバン首相はEU加盟国との十分な調整なしに「平和ミッション」と称し、ウクライナのゼレンスキー大統領ほか、ロシアのプーチン大統領、中国の習近平国家主席、トランプ前米大統領と相次いで会談。欧州議会は17日、オルバン氏のロシア訪問を「EUの条約と共通外交政策に対する明白な違反」と非難し、ハンガリーに罰則を科すべきとの考えを示していた。



<https://jp.reuters.com/world/ukraine/LZT3W6PKXVJUDJW5KRB3CHT33E-2024-07-22/>

⑤ウクライナ、200億ドルの債務再編で債権者グループと基本合意(By ロイター編集、2024年7月22日)

【ロンドン 22日 ロイター】 - ウクライナ政府は22日、200億ドルの外貨建て国債の再編について、債権者グループと基本合意に達したと発表した。

2022年に結ばれた2年間の債務猶予合意が期限切れとなる直前での合意となった。

マルチェンコ財務相は声明で、「民間債券保有者、国際通貨基金(IMF)、2国間パートナーとの数カ月間に及ぶ努力の結果、対外公的債務の包括的な再編について、特別債権者委員会と基本合意に達した」と述べた。政府の予算を安定させ、防衛資金を確保し続ける上で重要な一歩だと評価した。

政府の声明によると、ウクライナの発行済み外債の37%を減免し、今後3年間で114億ドルのキャ

ツシュフローが軽減される。

今回の合意はIMFによる1220億ドルの支援パッケージの条件に適合していることが確認されており、ウクライナ債権者グループも署名したとしている。

<https://jp.reuters.com/markets/japan/funds/IAZ66CDIARO2RCZZ7FIDU6H6RE-2024-07-22/>

⑥ 沖縄・北大東島 自衛隊レーダー配備を受け入れ(2024年7月22日)

沖縄県北大東島への航空自衛隊移動式レーダー配備をめぐり、北大東村の鬼塚三典村長は22日、計画受け入れを正式に防衛省側に伝えた。琉球新報などが伝えた。この日は、防衛省幹部が島を訪れ、村長と村議らとの面談を行った。

北大東島は沖縄本島から東に約360キロの太平洋に浮かぶ小島で、人口は約550人。中国の海洋進出などを踏まえ、これまで東シナ海と比べると手薄とされてきた太平洋側の警備監視体制を強化する狙いがあるとみられている。

南西諸島における日本の防衛力向上のほか、自衛隊が駐留することにより災害時の初動対応の迅速化なども見込まれる。一方、有事の際は軍事拠点として敵の攻撃の標的になる可能性も否定できない。



<https://sputniknews.jp/20240722/18856726.html>

※安齋注:安齋は2024年6月30日~7月3日、宮古島と沖縄本島を訪れましたが、宮古島では「中国脅威論」「台湾有事」を想定した基地建設がどんどん進められていました。知らぬ間に沖縄の戦場化が進行中です。

⑦【視点】バイデン氏撤退も「ハリスではトランプと戦えない」=乗松聡子氏(2024年7月22日)

スプートニク特派員は、バイデン大統領の選挙戦撤退が今後の世界情勢に与える影響について、カナダを拠点に活動する「ピース・フィロソフィー・センター」の代表である乗松聡子氏に話を聞いた。

◆スプートニク:バイデン氏撤退は、米大統領選挙にどのような影響をもたらしますか？

●乗松聡子氏:今の状況を見たら、トランプが大変有利ですね。バイデンが撤退してもしなくても、トランプが有利な状態になっていたとは思いますが。暗殺未遂事件があったでしょう。あれで俄然ト

ランプに有利になったと思うんですね。民主党内ではカマラ・ハリスを支持する声が多いと同時に、ただ後継指名されたからではなくて、ちゃんと民主党内でのレースを勝ち抜いた上で立つべきとの声が交錯していると聞いています。ハリスは副大統領としては非常に人気は低かったですし、何か業績があったようにも見えないです。彼女はランプととても戦えないと思いますね。

◆スプートニク:民主党でランプと戦える人物はいると思いますか？

●乗松聡子氏:私が一番怖かったのは、ヒラリー・クリントンが復活するんじゃないかということでした。そうなれば外交政策的には最悪のシナリオですけれども、報道など見ていると、ヒラリー・クリントンもハリスを支持しているので、それはないのかなとは思いますが。彼女も歳ですけども、ランプと同じぐらいの世代です。まだ不可能ではない年齢なので、出てこようと思えば出てこれると思います。

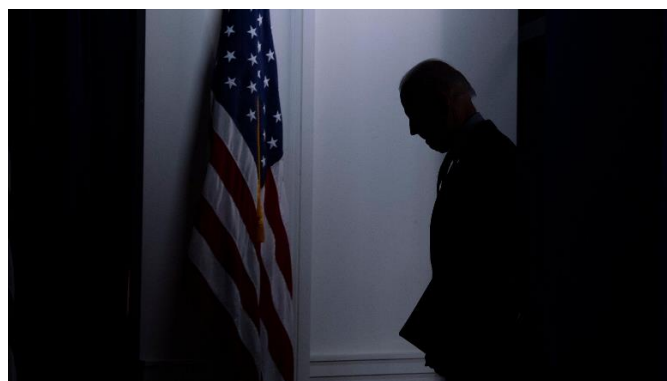
◆スプートニク:今の状況だと、やはりランプに一番チャンスがあると？

●乗松聡子氏:そうですね。ランプも殺されなければですよね。常に暗殺のリスクにさらされていると思うので。私もそれはランプのファンではないですけれども、テロにで大統領候補が殺されて、そのような方法で大統領が決まってほしくないですからね。

私が一番懸念するのは、報道などを見ても、ガザの問題が論点でなくなってしまうことです。つい最近まではアメリカの大学でデモが広がって、今でもやってると思いますけれども、これが大統領選に直接影響すると言われていました。ですが今、どちらに転んでも、もうガザにとっては絶望的な状況です。カマラ・ハリスも外交はあまり経験がなくて、基本的にバイデン路線を踏襲すると言われていました。ランプはウクライナ紛争は終わらせるんじゃないかっていう期待はありますけれどもね。そういう意味では、ランプの方が外交政策にプラスの部分はあると思います。ですが、前任の時代のイスラエルに対する非常に友好的な対応を見ても、ランプがガザのジェノサイドを止めるとは思えません。つまりガザの問題は争点になり得ないんです。ここまでの人道問題、殺戮が展開されているのに、もう世界が何もできないでいる。デモはもう世界中で広まっていますけれども。ただウクライナについては、ランプが大統領になったら、すぐにでも止めて欲しいと思います。

◆スプートニク:止められると思いますか？

●乗松聡子氏: はい。ただランプはマイク・ポンペオとかジョン・ボルトンとか、前任の時に非常に問題のあるネオコン(新保守主義)勢力で周りを固めたじゃないですか。そういう人たちが和平への道を塞ぐような可能性はあるので、問題はランプが誰を側近に置くかですよね。彼一人の意思でできるようだったら、彼一人の意思を貫けるようだったら、ウクライナ紛争はすぐにでも終わらせることができるんじゃないでしょうか。そう期待したいです。



<https://sputniknews.jp/20240722/18855844.html>

⑧特別軍事作戦 7月21日の概要 露国防省(2024年7月21日)

・ロシア軍は過去 24 時間でウクライナ軍の 400 トンの武器弾薬があった保管庫とウクライナ軍産複合体の工場を破壊した。

・ウクライナ軍の過去 24 時間の人的損失は最多で 1700 人に上った。

・ロシアの対空防衛システムは過去 24 時間でウクライナ軍のヘリコプター1 機、仏 AASM 長距離精密誘導ミサイル AASM(ハンマー)の発射したミサイル 2 発、米 M142 高機動ロケット砲システム「ハイマース」の発射したロケット弾 2 発、ドローン 40 機を迎撃した。

<https://sputniknews.jp/20240721/721-18852076.html>

⑨ゼレンスキー、外遊中止 ロシアはウクライナ東部と南部で集落制圧(2024年5月16日)

ウクライナ政府は15日、ゼレンスキー大統領の外遊予定を全て延期すると発表した。東部ハリコフでロシア軍が攻勢を強めている。

ニキフォロフ大統領報道官は「ゼレンスキー大統領は今後数日の海外の予定を全て取りやめるよう指示した。新たな日程を調整する」とフェイスブックに投稿した。

ゼレンスキー氏はハリコフの状況などを確認する軍との定例電話会議後に外遊中止を決めた。

スペインとポルトガルを訪問する予定だったが両国の政府関係者は訪問が中止されたと明らかにした。

ゼレンスキー氏は対話アプリのテレグラムへの投稿で外遊の延期を明らかにし、「現在、全ての注意を防衛作戦に向けている」と説明した。

ロシア国防省はこの日、ウクライナ北東部ハリコフ州で新たに2集落、南部ザポロジエ州で1集落を制圧したと発表した。

ウクライナを訪問中のブリンケン米務長官は、同国が再びロシアの激しい攻撃に直面している「重要な局面」で米国はこうした追加支援を行うと言及。米国はウクライナ軍がロシア軍と戦う最前線への弾薬と武器の輸送を急いでいると述べた。



<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2024/05/post-104508.php>

⑩ウクライナのキエフでのコンサートの様子(2024年7月 23 日)

※安齋注:戦争なんか、どこ吹く風。なんか変だなあ、この国は。

<https://x.com/i/status/1815594876685504901>



<https://x.com/ShortShort News/status/1815594876685504901?s=09>